

## 第3章

## 将来都市像と 都市づくりの目標

- 1. 将来都市像 ..... 18
- 2. 都市づくりの考え方 ..... 18
- 3. 都市づくりの目標 ..... 19
- 4. 将来都市構造 ..... 21

# 第3章 将来都市像と都市づくりの目標

## 1. 将来都市像

江別市の最上位計画である「第6次総合計画」（計画期間：平成26年から平成35年まで）では、江別市のめざす10年後の将来都市像やまちづくりの基本理念を以下のとおりとし、市民が暮らしやすくいつまでも住み続けたいと思えるまちづくり、また、江別市に住んでいない人でも住んでみたいと思ってもらえる魅力あるまちづくりを市民協働により、進めることとしています。

将来都市像：「みんなでつくる未来のまち えべつ」

基本理念：「安心して暮らせるまち」

「活力のあるまち」

「子育て応援のまち」

「環境にやさしいまち」

本計画では、第6次総合計画の将来都市像である「みんなでつくる未来のまち えべつ」を将来都市像とし、第6次総合計画の将来都市像、基本理念と第2章3の都市づくりの視点を踏まえ、安全性や快適性が図られた住環境の形成、活力や魅力向上による地域経済の活性化やにぎわいの創出、都市構造、都市活動における環境負荷の低減を図る都市づくりをめざします。

そして、これらを実現するためには、市民や大学、企業、行政などがそれぞれの役割と責任を理解し、協力して取り組む「協働のまちづくり」が根幹にあります。

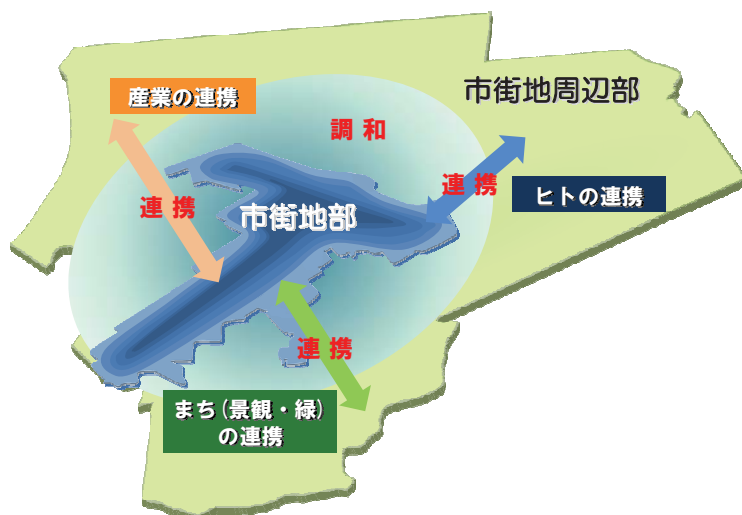
将来都市像

**みんなでつくる未来のまち えべつ**

## 2. 都市づくりの考え方

これらのことから、江別市の都市づくりは、市街地においては、現在の都市構造を活かしながら質を高めていき、また、市街地だけではなく、その周辺部が主に農業地という特徴を活かし、双方が一体となって、調和と連携を図りながら、江別市全体の発展につなげる必要があります。

そのためには、江別市の特性や地域固有の資源、既存ストックなどを有効に活用するとともに、地域などの協働と参画により、地域特性を活かしたきめ細かな魅力ある都市づくりを行っていきます。



### 3. 都市づくりの目標

江別市の都市づくりの目標は、第2章3の都市づくりの視点、前述の将来都市像、都市づくりの考え方を踏まえるとともに今後の社会経済情勢の変化などを見据え、また、計画期間だけではなく、その先の将来の都市づくりに備えるため、長期的な見通しをもって定める必要があります。

このため、目標年次以降を見据えた将来の都市の姿を実現するために、今後10年間において、目指していく都市づくりの目標として定めるものとし、次の4つを設定します。

#### 1. 駅を中心とした集約型都市構造 ～えべつ版コンパクトなまちづくり～

江別市は、江別駅、野幌駅、大麻駅をはじめとする駅を中心に発展してきた都市であることから、都市機能が集積する駅を中心とする拠点と他の地域と有機的な連携を図り、江別市の特性や歴史を活用しながら持続的な発展を確保する質の高い都市づくりを進めます。

##### (1) 成熟した質の高い都市づくり

既存市街地の範囲を基本とし、拠点を主体とした効率的な都市運営を行うために、既存ストックの活用や土地利用の高度化などによる質の高い市街地形成をめざします。

##### (2) 活力・魅力を持った都市づくり

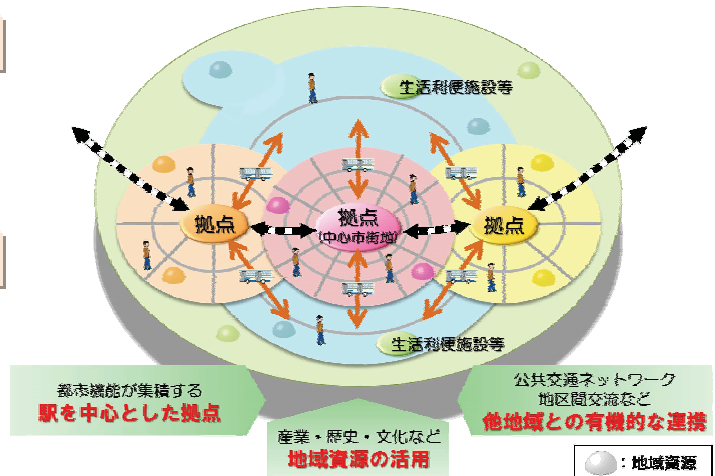
地区間交流を深めることによる拠点のにぎわいの向上や、地域特性に応じた産業振興に資する土地利用の推進を図り、必要に応じて既存市街地周辺部においても検討を行うなど、活力・魅力を伴った持続性のある都市をめざします。

##### (3) 環境にやさしい都市づくり

集約型都市構造化による環境負荷の軽減や自然環境と調和した低炭素都市をめざします。

##### (4) 歩いて暮らせる都市づくり

駅周辺などの拠点間と他の地域を結ぶ公共交通のネットワーク化や必要に応じて生活利便施設の立地環境を整えることなどにより、多くの人々が徒歩で暮らしやすい市街地形成を図ります。



えべつ版コンパクトなまちづくりのイメージ図

## 2. 地域経済の活性化

活力・魅力を伴った持続性のある都市をめざすため、産業振興に資する土地利用などを推進し、雇用の場や安定的な税収の確保などを図ります。

### (1) 市内への企業立地

工業用地の斡旋や需要を踏まえて分譲用地の造成を行い、企業立地を推進します。

### (2) 戦略的・政策的企業誘致

フード特区の指定を契機とした食に関連する企業・研究機関等のさらなる誘致の推進や東西インターチェンジ周辺などの産業上の優位性が高い地区については、周辺環境との調和を踏まえながら地域特性に応じた土地利用の検討を行います。

## 3. 災害に強い安全・安心な都市環境

江別市は、石狩川をはじめ大小様々な河川を有しており、これまでの水害対策や地震などの自然災害に対応するための取組に努めてきましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災による甚大な被害と、その後の防災意識の高まりを受け、江別市の特性に応じた災害対策の強化を進めます。

### (1) 災害に強い都市施設

都市施設等の防災対策や収容避難所・公園などの一時避難所の適正配置を進めるとともに、災害用備蓄機能の充実を図ります。

### (2) 防災体制の充実

様々な災害発生を想定し、自治会等の地域組織や防災関係機関との組織連携を強化するなど、防災体制の充実などを進めます。

## 4. 江別市の特性を活かした魅力ある都市

人口減少や地方分権が進み、都市間競争が高まる時代に、江別市が子育て世代や高齢者など多様な世代から「住みたい都市・住み続けたい都市」として支持されるため、暮らしやすい良好な住環境の形成や利便性の向上、都市機能などの充実に加え、江別市の特性を活かした魅力ある都市づくりを進めます。

### (1) 地域の資源・優位性を活かした都市づくり

江別市を象徴するれんがや野幌森林公園などの文化・自然環境、大学が集積し多くの学生が生活する文教都市、都市と農業の近接、インターチェンジの配置などを活かした都市づくりを進めます。

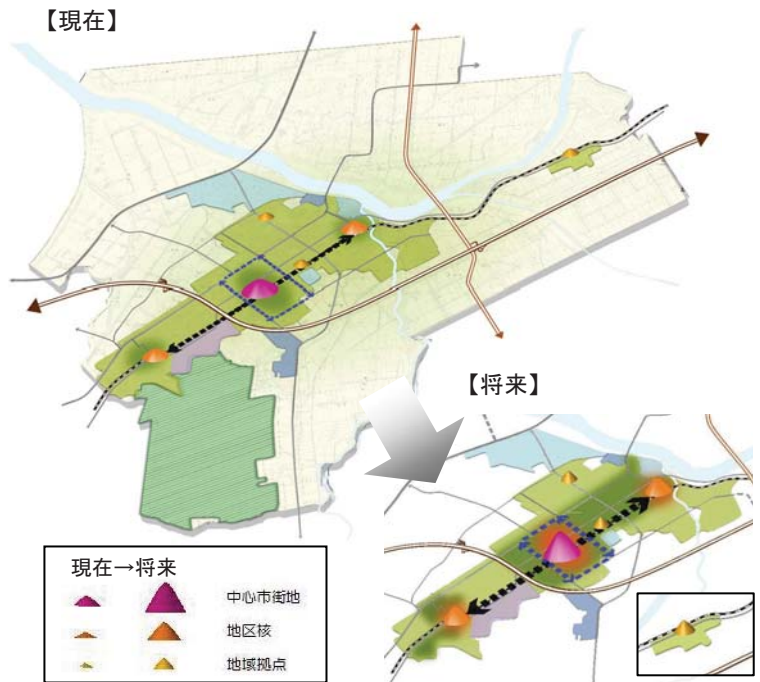
## 4. 将来都市構造

本市の都市構造は、地理的条件やこれまでの都市づくりの歴史、社会経済情勢の変化を踏まえ、将来都市像や都市づくりの目標のもと、多くの人が暮らしやすい集約型都市構造を基本とします。

都市部である市街化区域では、駅を中心とした各拠点に、それぞれの特性に応じた都市機能を集積させるとともに、これらの拠点を支える居住を進め、効率的な都市運営にもつながるコンパクトで利便性が高い市街地を形成します。

また、主に農業地である市街化調整区域においては、健全な農業の発展と自然環境の保全のため、市街化を抑制することを基本として、都市部と農村部が近接する特性を活かします。

このような考え方にに基づき、将来に向けた都市構造を以下のとおり設定します。

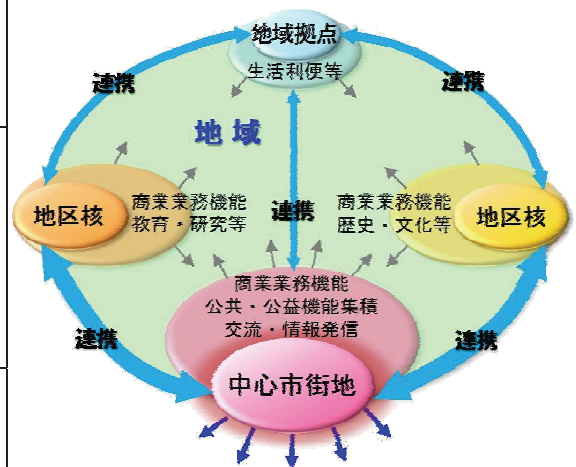


集約型都市構造のイメージ

### (1) 拠点

拠点は、商業業務機能、文化交流機能などが集積する都市や地域活動の中心的地区であり、今後の人口減少・少子高齢化などにより、拠点への生活利便施設等の都市機能の集約化や地域間におけるコミュニティの連携がさらに求められています。このため、都市機能が集積する江別駅、野幌駅、大麻駅の各周辺地区を主要な拠点と位置づけ、都市活動を支える中心市街地を中心に、地区核、地域拠点を特性に応じて合理的に配置し、各拠点の効率的な育成や相互連携を図ります。

中心市街地	野幌駅周辺は、商業業務機能、文化交流機能、交通結節機能などの江別市全体に必要な機能を集積する拠点とします。
地区核	江別、大麻駅周辺は、中心市街地と相互連携を図りながら、地域特性に応じて商業業務機能、文化交流機能、交通結節機能などの機能を集積し、地域住民の日常生活を支える拠点とします。
地域拠点	豊幌駅周辺、高砂駅周辺、元江別中央地区は、良好な交通環境などを活かし、日常生活の利便性向上に寄与する機能を集積する拠点とします。









拠点の配置、役割のイメージ

## (2) 中心軸

駅を中心とする拠点を東西に貫く「JR函館本線、国道12号」は、拠点間連携や交通ネットワークの要となることから、都市の中心軸と位置づけ、沿線においては、都市の骨格にふさわしい土地利用などをめざします。

## (3) 交通軸 (P23 将来都市構造図 参照)

広域交通、地域間交通のネットワークを担う、主要な路線は、交通軸として位置づけます。

主要交通軸		広域及び地域間連携の役割を担う路線	北海道縦貫自動車道
			道央圏連絡道路(国道337号)
			国道12号、国道275号、3番通、白樺通、8丁目通、道道江別恵庭線、札幌圏連絡道路(道道札幌北広島環状線、道道江別恵庭線)、南大通、江別インター線、大麻インター線、道道江別奈井江線
市街地内 南北交通軸		市街地の南北連携を担う路線	新栄通、中原通
都市内環状道路		都市内のネットワークを図る路線	白樺通、3番通、5丁目通、江別恵庭線、南大通
都心環状道路		都心部のネットワーク化を図る路線	白樺通、3番通、新栄通、中原通、南大通

## (4) 河川軸

江別市を代表する石狩川、千歳川、夕張川の主要3河川を、河川軸として位置づけ、防災機能のほか、うるおいや豊かな緑の環境の提供など良好な自然環境を活かした利活用を図ります。

## (5) 住宅地

拠点周辺に広がる住宅を中心とした市街地を住宅地と位置づけ、駅を中心とする歴史的成り立ちや地理的条件、コミュニティ形成などから「江別、野幌、大麻・文京台、豊幌」の4地区を位置づけます。

## (6) 工業地

第1、第2工業団地(工栄町、角山)、RTNパーク(西野幌)などを、交通環境や操業環境が整った工業地として位置づけます。また、インターチェンジ周辺は、交通便利などの優位性を活かし、産業振興などにつながる土地利用を検討します。

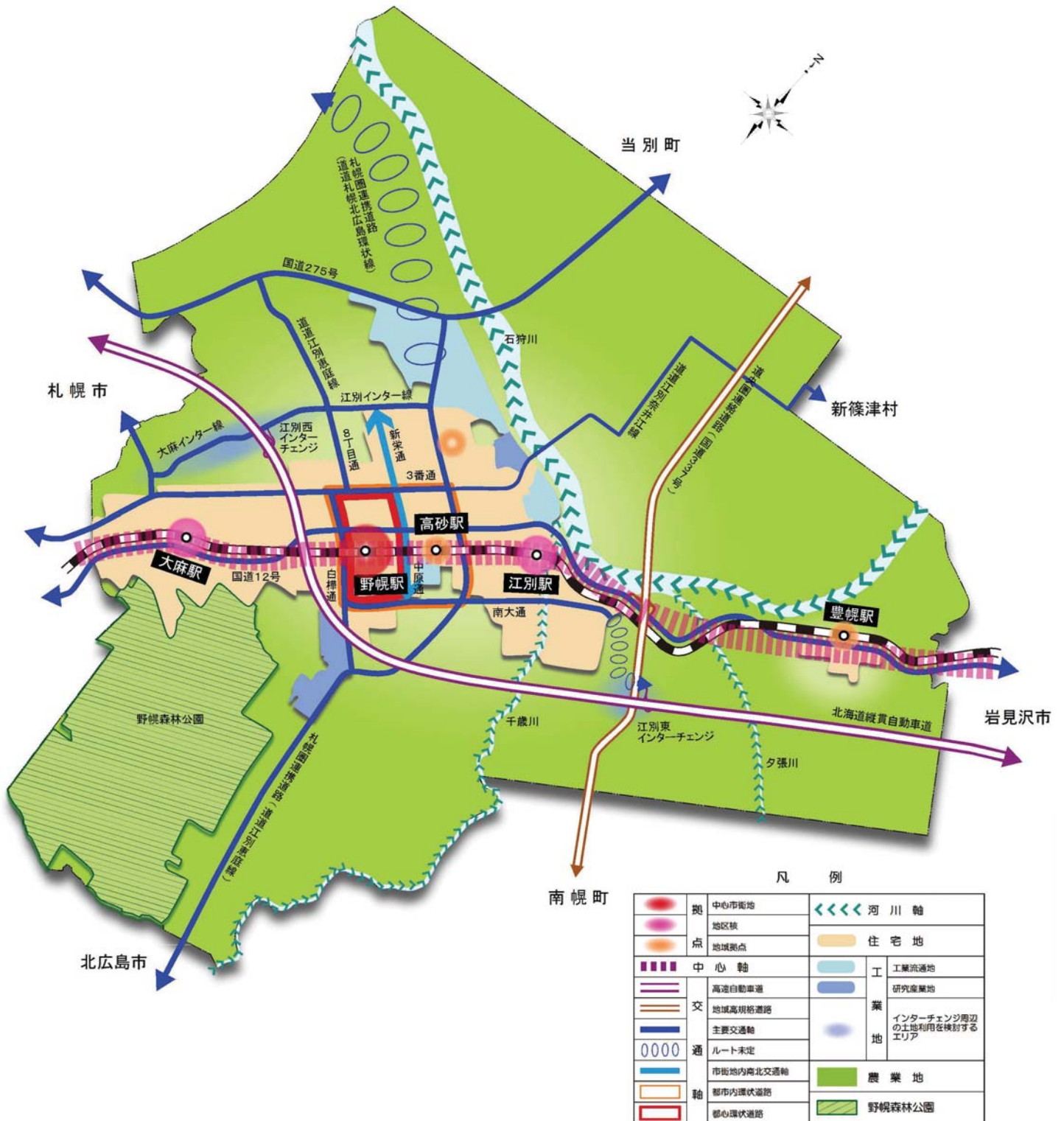


(7) 農業地

市街地外縁に広がる優良な農地及び農村集落地を農業地として位置づけます。優良農地と良好な農村環境の保全、食料生産基地としての土地利用を基本としつつ、市街地と近接する特性を活かし、産業振興につながる土地利用などについて、周辺環境との調和などを考慮して検討します。

(8) 野幌森林公園

野幌森林公園は、周辺の住宅地や工業地などの魅力づくりと環境負荷の低減などを担う江別市の緑の要として位置づけます。



将来都市構造図

